



2019年度 出前講座報告書

NO.3

2019年10月4日 南会津保健福祉事務所

地域診断の方法：PCM手法

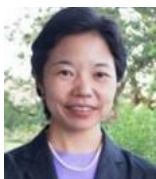
生活習慣病等の予防を目的とした保健事業の運営においては、地域診断や健康情報を伝える力が求められます。今回は、地域のニーズに合った保健事業の運営を目指し、魅力ある保健活動を提供するために必要なPCM(プロジェクト・サイクル・マネジメント)手法について学びました。



講義の様子



講義では、PCM手法の基本である問題分析、目的分析、事業計画立案、計画表作成や評価について学びました。また国際活動や地域活動での実例を通じて、PCM手法の一連のプロセスについて学びました。事業を計画し、実施から評価におけるすべての段階では、連携が大事であることや関係者間、皆で進めていくことが必要であることも学びました。



講師紹介

山形大学医学部卒、ハーバード大学公衆衛生大学院において公衆衛生修士(MPH)を取得後、山形大学大学院において医学博士を取得。ポピュレーションカウンシル・ベトナム支部、福島県立医科大学公衆衛生学講座、途中、ハーバード公衆衛生大学院でのフェローを経て現職。ベトナムでは疫学研修を医師会の医師生涯教育認定研修に組み入れて継続しており、福島県では家族計画や育児支援に関する疫学研究を地域の保健師と協働して行い、最近ではランカスター大学と共同で学童期の子どもを対象に参加型社会学研究を展開している。

福島県立医科大学
総合科学教育研究センター
教授
後藤あや

グループワークの様子

グループワークでは、PCM手法における問題分析、目的分析に焦点を当てPDM(事業計画表)を立案し、共有しました。具体的には事業目標や評価における評価指標を明確にしながら作成し、活動内容についても共有しました。



▶演習では、PDM (事業計画表)について互いに意見交換をしながら作成し、理解を深めました。

アンケート集計結果

参加者は13名、アンケート回収は13名でした。

	そう思う*
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	92%
時間配分は適切だった	92%
進行は適切だった	92%
講義について	
講義内容が理解できた	100%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	92%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	92%
話し合いについて	
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	92%
あなたご自身について	
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	62%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	69%

参加者の感想

- 今後PHNとして事業を企画する機会は今後たくさんありますが、本日このような研修を受けることができとても役に立ちました。事業の企画がプレッシャーでしたが、まずは自分自身が楽しんで頑張りたいと思います。
- 話し合いをしながら楽しく考えることができました。
- あいまいなままやっていた事業をもう一度、見直していきたいと思えます。

復習ポイント

- ✓ 事業計画立案から評価までの流れとポイント
- ✓ 魅力的な活動を生み出すためのコツとは

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計